

【ダイバーシティ】

近頃都内のコンビニに行くと、外国人が店員をしている人が多く見受けられる。東京オリンピックの後押しもあって、日本に流入してくる外国人が増え続けており、今後も更に増えるとされている。日本国内の企業で、日本人とだけ働いていれば良かった時代は終わっており、多くの国籍の人と一緒に働くことが必要となる。WIN conferenceのグローバルな雰囲気から、将来の働く場はこういうものなのかとを感じる事ができた。

働く相手の性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観、などの多様性に気付き、受け入れてその可能性を考えていこう、というのがダイバーシティの考え方である。

では、ダイバーシティを受け入れると何が良いのか。新しい側面から見た考え方を知り学ぶ事ができることだと僕は考えている。そうする事で自分を磨く事ができるし、変わりゆく時代の中で新しい事を生み出す事が常にできると思っている。WIN conferenceでその最先端を歩く女性リーダーたちの話を聞いて、もっとこのテーマについて知り考えを深めたいと感じた。

【女性と男性】

参加者のほとんどが女性であるWIN conference全体を通して一番感じたのが、場のエネルギーの高さである。終始会場には笑顔が溢れていて、明るくて優しい雰囲気に包まれていたように感じた。女性がつくる場の可能性の大きさを感じた。

ただ同時にWIN conferenceの参加を通して強くなった想いが、「男性側としての使命」である。Diversity、Includingをうたっているイベントの会場のはずが、その場に男性がほとんど見当たらなかった。女性が女性の活躍と言って精力的に動いていても、どうしても現状の職場の中心となっている男性側がこれを受け入れ一緒に未来をつくっていく姿勢を持っていかないと、本当のダイバーシティは実現できないと考えている。自分こそこのテーマを掲げて周囲に伝えていきたいと思った。

【スティーブンのワークショップ】

ワークショップで最も印象的だったスティーブンのワークショップについてもまとめる。

自分に自信をもつこと、それを体の動きにあらわすことの重要性が、まさに体をもって伝わった。何かと控えめだったり、自分に自信がない人が多い日本人には特に、必要なトレーニングだと思った。

大切なのはエネルギーであり、心から楽しむこと、それを表現すること。女性だけでなく、男性にも必要だと思うので、自分の周りの仲間にも伝えていきたい。

【WIN next generationの学生統括をやってみて】

今回WIN next generationイベント企画から集客を通して

自分含めた若者にとって、ダイバーシティというテーマに対してまだまだ考えが浅いことが実感できた。将来をつくっていく自分たち若者世代が率先して、今後さらにこのテーマについて考え、動いていきたいと思った。

今回来ていた大人の方々は、国籍や性格服装など多種多様な方々で、ダイバーシティそのものを体感することができたのが大きな収穫だった。